

自己評価報告書(最終報告)

| | | | |
|-------|-----------------|-------|------|
| コース等名 | 生活・健康系コース(保健体育) | 記載責任者 | 乾 信之 |
|-------|-----------------|-------|------|

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 大学院の学生定員の充足

貴専攻・コースにおける過去5年間の大学院学生定員充足状況を分析・検証し、達成目標を設定するとともに、どのような具体的方策を立てて、目標達成に向けて取り組んでいくかを示して欲しい。

1. 目標・計画

本コース大学院の定員を100%確保するために次の方策を設定・実施し、受験を勧誘する。

- ①全教員が所属する学会において、本大学院および本コースの広報活動を行う。
- ②本コースのホームページを教員の研究内容および修士論文の実績等で充実させる。
- ③研究仲間、本学出身で教職、教育関連職についている人に本コース大学院の紹介パンフレットを配布し、関係者への受験の呼びかけを依頼する。
- ④大学院入試委員会が企画する県内外の大学訪問に積極的に応募する。

2. 点検・評価

平成23年度本コース大学院の入学生は20名を確保することができた。

1. コース教員は所属する学会や徳島県内外の研究会・研修会において、本コースの広報活動を積極的に行っており、関係者の大学より定期的に入学生を確保できている。
2. 大学公式のホームページに本コースのオリジナルページをリンクさせており、コース内の情報や修士論文公開審査会・中間発表会資料がダウンロードできるように整備・充実できている。
3. 本コース関係者より情報提供があれば、それに対応し、紹介パンフレット・募集要項等を配布している。
4. 大学院入試委員会が企画する県内外の大学訪問を積極的に参加しており、関係者との面談を行っている。

I-2. 学生支援の取り組み

学生の卒業時・修了時における「質」保証のためには、常日頃から学生に対する支援を推進していくことが必要である。

貴専攻・コースにおけるこれまでの学生支援の取り組み状況を分析・把握し、本年度どのような学生支援の取り組みを行うか、具体的な方策を示して欲しい。

1. 目標・計画

- ①部活動の指導に積極的に取り組む。
- ②学生・院生の授業料免除に応募できるように支援する。

2. 点検・評価

1. コース教員は各自の得意分野のスポーツ部の活動を指導した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①学生の興味あることを深化させるような授業、卒業論文、修士論文の指導にあたる。
- ②大学院生には各院生のニーズと学力に応じた指導を行う。

2. 点検・評価

1. コース教員は各自の研究分野・内容について、ゼミ所属等に拘わらず、学生・院生に情報提供しており、また、指導教員のもと、卒業論文(11名)・修士論文(6名)が提出され、発表会・審査会が充実した内容で行われた。
2. コース内での学生の進路・悩み事にクラス担任・教務委員等が相談に応じており、問題の初期段階での対応がうまくなされている。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- ①全員が代表者として、科学研究費補助金の申請を行う。
- ②採択されている科学研究費補助金に関しては、計画通り、成果が得られるよう取り組む。
- ③各自、これまで行ってきた研究の成果を学会及び論文として発表する。

2. 点検・評価

1. 新規科学研究費採択者は2名、採択研究継続者は2名であった。
2. コース全員11名は、これまで行ってきた研究成果を学会誌へ論文投稿および学会発表を行った。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①各自、委員として学内の各種会議に出席し、積極的に職務を遂行する。
- ②コース会議、部会議、全学集会への出席率を上げる。
- ③委員会以外の大学運営に関わる事項に対しても、コース全教員の協力と調整に基づき、担当者が円滑に職務を遂行できるようにする。
- ④大学運営に関する問題点、意見、発案を各種委員等で積極的に提言する。

2. 点検・評価

1. 各教員は委員として学内の各種会議に出席し、職務を遂行した。さらに、大学運営に関する問題点・意見・発案を積極的に発言した。
2. コース会議・部会議においては、出張等での欠席は事前にコース長・部長に連絡しており、担当者不在による不都合がないよう対処されている。また、全学集会へも教員互いに啓蒙を図り、大学運営への意識を高めた。
3. ワーキング、選考委員会、附属校園への支援関係など委員会以外の大学運営に関わる事項に対しても、コース全教員の協力の基、調整を行い、担当者は円滑に職務を遂行し、大学運営に寄与した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①附属学校の保健体育関連教諭と保健体育コース教員との懇談会を開き, 相互の教育・研究の情報交換を行い, 双方向の教育・研究体制をつくる。(附属学校園との連携)
- ②公開講座, フレンドシップ事業などを提供する。(社会貢献)
- ③教育支援講師, アドバイザーなどとして, 積極的に学校現場, 地域主催研修会等に出向き, 指導・助言を行う。(社会貢献)
- ④海外の研究機関との共同研究を積極的に行う。(国際交流)

2. 点検・評価

1. 附属学校の保健体育関連教諭と保健体育コース教員との懇談会を開き, 教育・研究の情報交換を行った。また, 年間を通じて, 附属校園への指導と大学の授業, 頻繁に相互に支援を行う機会を増やし, 連携体制を強固にした。
2. 公開講座, フレンドシップ事業を提供した。
3. 教育支援講師アドバイザー等派遣事業にコース教員の9割が登録し, 派遣依頼に応じた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

今年度学部卒業生9名の内, 5名が教員採用試験に合格し, 教員と公立学校事務として正採用され, 1名は大学院に進学した。10名の大学院生のうち2名が教員採用試験に合格した。教員に正採用されていない学部生と院生は公立の小中と私学の中高に非常勤講師として就職した。